

営農 トレンド

「営農」に関わるトレンドを
営農アドバイザーや担当者ご紹介

食の安全・安心の意識向上へ 全戸訪問・講習会を実施

食の安全に対する消費者の意識は高く、JAは食のリスク管理体制を強化し、生産者と共に安全な農産物の提供を徹底しています。

生産者と共に安全・安心な
農産物を提供します



営農販売部 営農企画課

むらた すすむ
村田 進

■農薬適正使用へ全戸訪問

JAは本年度、食の安全・安心に関する意識向上と食品に関する事故の未然防止を目的に、生産者の全戸訪問を行っています。

生産部会・ファーマーズマーケット・産直市会員ら513戸を対象に訪問。「農薬使用・保管チェックシート」を用いて、農薬庫の点検や生産者への聞き取りを実施しています。職員が生産履歴の記載内容や農薬の管理状況などを確認し、農薬の適正使用の徹底を指導しています。

生産履歴の記帳は、使用した農薬の種類や使用時期などが明確になり、安全性の確認につながります。それが消費者にとつて、安心して食べられる農産物の証拠にもなります。さらに、農薬を適正に使用していることの証明にもなり、万が一事故が起きた際には、原因究明や早期の問題解決にもつながります。

■全地区統一の講習会を開いて意識醸成

9月から翌年2月にかけて、ファーマーズマーケット・産直市会員を対象とした「食の安全・安心講習会」を全地区統一で行っています。出荷者へ安全・安心な農産物・加工品の出荷に向けた意識の高位水準化を図っています。

講習会では、残留農薬事故の事例共有を行い、参加者は農薬の適正使用や食品衛生管理の法令・ルールについて改めて確認しました。

■JAと生産者が共に食の安全を守る

本年度、県内の農薬事故件数が増加しています。JAでは、生産者と連携して生産・出荷・加工の各工程でさまざまな安全対策を講じています。これらを徹底することは、消費者からの信頼確保につながります。法令やルールを再確認し、今まで以上に安全・安心な農産物の提供に努めていきます。



チェックシートを活用して農薬管理を点検



全地区で食の安全・安心講習会を開催

TOPICS 1 食のリスク管理体制を強化

かき

花卉の流通・販売強化に向けた取り組み

JA管内では、伊豆半島や富士山麓地域を中心に花卉の生産が盛んです。JAは品目別振興計画で花卉を準品目（広域で生産されている将来に向けて振興を図る特産品）に位置づけ、生産振興に取り組んでいます。今回はその中から、花卉の流通・販売強化に向けた取り組みを紹介します。

■JAふじ伊豆の花弁

管内ではカーネーションやトルコギキョウ、シキミなど高品質で日持ちの良い花が多く生産されています。関東や関西の市場を中心に出荷され、市場から高い評価を得ている一方、生産者の高齢化や輸送運賃・生産コストの上昇などにより、栽培面積が年々減少しているのが現状です。

JAは新たな担い手の育成や労働力支援により収量を確保すると共に、有利販売や消費拡大に向けた取り組みにより生産者の農業所得の向上を図り、産地の維持に努めます。



■フラワーロス削減し、農業所得を向上

市場出荷には厳しい出荷規格が設けられているため、商品として十分な品質があるにも関わらず、選別の段階で丈不足や茎が真っすぐでないなどの理由から市場に出せない花が発生します。

そこで、販売物流プラットフォーム（地区間配送システム）を活用してファーマーズマーケットに出荷するなど販路を拡大し、フラワーロスの削減で生産者の農業所得向上につなげています。今後は、取扱品種や取扱店舗をさらに拡大していきます。

■ファーマーズマーケットでのイベントで管内産花卉の魅力をもっとPR

管内産花卉の認知度向上と魅力発信を目的に、「母の日」や「いい夫婦の日（11月22日）」などに合わせ、ファーマーズマーケットなどの店頭で各種イベントを行っています。

12月5日・6日・13日には、ファーマーズマーケット8店舗で「はなまつり」を開催します。伊豆



販売物流プラットフォームで伊豆太陽地区産の切り花を農の駅グリーンプラザ伊豆の国で販売

産地の維持・発展に向けて
取り組んでいきます



花卉トップ営農指導員
東伊豆営農経済センター

たむら まさる
田村 優

太陽地区産のカーネーションや富士地区産のトルコギキョウなどの他、各ファーマーズの地元生産者の切り花が並びます。地場産のみずみずしく美しい花をお求めいただけます。ぜひお越しください。
（はなまつりの詳細は、ホームページをご覧ください。）

TOPICS 2 管内産花卉の消費拡大を目指して